

校長室より

第84号

「天空高き」



平成28年6月20日

先にあいさつをしようーあいさつ・無遅刻無欠席運動週間ー

本校恒例のあいさつ運動週間がやってきました。

16日には、空手道部員から、気合の入った力強い「おはようございます」の声に、ドキッと、英会話部員の「Good morning!」には、心が癒されました。

日本語であれ、英語であれ、どこの世界でもまず最初に挨拶が交わされます。私たちの住む世界は一人では生きていられないからでしょうか。

にっこり微笑みながら「おはようございます」と声をかけられれば、気持ち良いものです。本校を訪問された外部の関係者から、「運動部の諸君から元気のよい挨拶をいただきました」と、お褒めの言葉をいただくと、やはりうれしくなります。

あいさつは、あかるく、いつも、さきに、つづけること、が大事です。

「おはようございます」「ありがとうございます」「失礼します」「すみません」というあいさつ言葉を大切にしましょう。

生徒会では、「あいさつ運動週間」と並行して「無遅刻無欠席運動週間」も実施しています。中・高生にとって一番大切なことは、規則正しい生活習慣を身に付けることです。その中で特に重要なことは、起床と就寝時間・食事時間・学習時間の3点を固定し、継続することです。毎日の生活リズムが一定になります。つまり「継続は力なり」の所以（ゆえん）がここにあります。16日には、イチロー選手がローズ選手の4,256安打を超えました。イチロー選手は「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただひとつの道だ」と言っていますが、彼らしい重みのある素晴らしい名言ですね。



足りない、足りない、工夫が足りない

木村 秋則（奇跡のリンゴ）

一票を投じるー7月10日参議院選挙ー

7月10日に参議院議員通常選挙が行われます。7月11日までに誕生日を迎える生徒が選挙権を有します。

そこで、先日、高校3年生を対象に、18歳の選挙権に関するアンケート調査を実施しました。

244名中、選挙に「行く」または「多分行く」と答えた生徒が136名(55.7%)、「行かない」と回答した生徒が41名(16.8%)、「わからない」と回答した生徒は、67名(27.5%)でした。



『政治に何を期待しますか』という問いに対して、「行かない」、「わからない」と回答とした生徒たちは、“政治に何も期待しない”、“政治家に対して信頼が持てない”、“政治がわからない”、と答えた生徒が多数いました。

「行く」または「多分行く」と回答した生徒たちは、“社会福祉の充実、少子高齢化対策、景気対策、消費税を引き上げない、平和”、という声が多数ありました。中には、“国の借金返済とか国防対策”、という記述もありました。一生懸命、真面目に、日本の国のことを考えていることが読み取れました。

『選挙権が18歳になって不安に思うこと』という問いに対しては、「行く」、「行かない」、「わからない」と回答した生徒たちは、いずれも、“政治に対する知識不足の者やわからない者が投票してよいのか”、“どんな政治家に投票すればよいのか”、“自分たちが選んだ政治家によって国がどうなるのか”、“一票に対する責任の重さ”、“ふざけて投票する者がいるのではないか”、“投票率が下がるのではないか”、“選挙違反に巻き込まれるのではないか”、といったことを記入していました。

一枚、一枚に目を通していく中で、生徒の皆さんが本当に真剣に日本の政治のことを考えている、ということがわかりました。

「ポリティカル・リテラシー（政治的能力）」を養う第一歩は、政治に関して興味・関心を持つことから始まります。友達や家族たちと、今皆さんの周りで起こっているいろいろな問題や課題（例えば、身近な家族や暮らしている街で問題になっていること、あなたが不満に思っていることなど）を社会問題として捉えなおすことです。それが、今皆さんに求められていることです。

平成26年12月に行われた第47回衆議院議員総選挙では、投票率が20歳代で32.58%です。今回の参議院議員通常選挙での本校の皆さんの投票率は55.7%です。皆さんの若いパワーで世間を「あっ！」と言わせようではありませんか。意識が変われば行動が変わります。行動が変われば世界が変わります。

後輩の皆さんへ その1ー六本木ヒルズを見学してー

13日に本校の卒業生である漫画家の弘兼憲史（昭和41年卒）先輩、森ビル副社長の北林幹生先輩（昭和46年卒）、同窓会関東支部長である及川千木夫先輩（昭和42年卒）とお会いする機会がありました。

北林先輩の計らいで、六本木ヒルズの51階にある六本木ヒルズクラブというところで、昼食をごちそうになりました。

六本木ヒルズは森ビルの21世紀の都市づくりへの思いを結実させたものだそうです。

東京に新しい「文化都心」を生み出す、国内最大規模の都市再開発です。メインタワーの森タワー最上層に、美術館、展望台、会員制クラブ、アカデミー・フォーラム施設からなる複合文化施設「森アーツセンター」を配したことが、この街の大きなメッセージになっています。2003年のオープン以来、国内外から毎年4,000万人を超える人々が訪れるそうです。

あいにくの雨で、残念ながら51階からの東京の景色を一望することはできませんでしたが、六本木ヒルズ自体の大きさにはびっくりさせられました。

スケールの大きさにびっくりさせられたのは、43階にある東京の中心街を1/1,000に縮尺した模型図（右写真）を見せていただいた時でした。

高低差も寸分にたがわず設計され、上海市街地、ニューヨーク市街地もありました。必ずある一定の期間後には更新されるそうです。

皆さんはなぜこのような精巧な縮尺模型図を作成するのかわかりますか？

再都市開発のために作成するそうです。東京の市街地を俯瞰的に眺めることによっていろいろなアイデアが浮かんでくるのでしょうか。やはり、その中でも最前線で活躍されている我々の先輩がおられるというのは、誇りであり心強いことですね。



後輩の皆さんへ その2ー弘兼憲史先輩よりー

まず、弘兼憲史先輩についてです。（「BOOK 著者紹介情報」より抜粋）

先輩は本校を卒業後、早稲田大学法学部を卒業され、松下電器産業に勤務。のち、漫画家として独立されました。

1976年『朝の陽光の中で』で本格デビュー。

人生、人間、社会についての縦横無尽な洞察が弘兼漫画の特徴。『人間交差点』で小学館漫画賞(1984年)、『課長島耕作』で講談社漫画賞(1991年)。

『黄昏流星群』で文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞(2000年)、日本漫画家協会賞大賞(2003年)、紫綬褒章受章(2007年)。

先輩に、高水の後輩たちへメッセージをお願いしました。

「勉強ばかりするんじゃないぞ」と書かれましたが、先生らしい含蓄に富んだ言葉です。

勉強ばかりするな、ということは、たまには遊べということでしょうか。遊びも大切ですが、学校というところは、勉強だけをするところだけじゃないぞ。先生がいて、同級生や後輩や先輩がいる。いろいろな学校行事がある。運動会や楽学祭で仲間と共に、時には言い争いになってもみんなで作る。部活動では、後輩たちを引っ張り上げながら、先輩たちと共に汗水を流しながら切磋琢磨しろ。勝って喜び、負けて悔しい思いをしろ。時に人を好きになることもあるだろう。人生の悲哀を感じろ。自分の人生だ。それが人生だ。甘いも辛いも、酸っぱいことも苦いこともあるのが人生。思い切り、チャレンジしろ！と、弘兼先輩は後輩である皆さんに熱く語り掛けているのではないのでしょうか。

弘兼憲史先輩のこれからの益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



24節気【夏至】 げし：6月21日頃

「夏に至る」と書くように、この日を過ぎると本格的な夏の到来です。北半球では太陽が1年で最も高い位置にきて、昼間が一番長い日になります。冬至の日と比べると、北海道の根室で約6時間半、東京では約4時間40分も長くなります。岩国地域では、日の出 5:00、日の入り 19:26です。